

## 第1章 特性と課題

---

# 第1章 特性と課題

## 1. 広域景観の成り立ち

太古・原始	古 代	中 世
<p>～縄文時代 (～紀元前4世紀頃)</p>	<p>弥生時代～平安時代 (紀元前4世紀頃～12世紀)</p>	<p>鎌倉時代～安土桃山時代 (12世紀～17世紀)</p>
<p><b>原風景を形づくる大地形の成立</b> ○およそ1300万年前 ・地殻変動により遠浅の豊前海が形成される。</p>  <p>○およそ70～100万年前 ・火山活動により現在の地形が形成される。</p>  <p><b>南部と北部で異なる地形</b> <b>&lt;北部&gt;</b> ・カルスト地形の平尾台や台形状の山並みがあり、平坦な京都平野が豊前海へと続く開けた地形。</p>  <p><b>&lt;南部&gt;</b> ・火山活動に伴い形成された英彦山から連なる山並みがあり、そこからなだらかな尾根筋が豊前海へと続く、海と山が近接する地形。</p>  	<p><b>人々の暮らしの始まり</b> <b>豊姫の国(伝説)の豊かな景観が形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊玉姫、台予、豊比咩など様々な伝説が、姥が懐や青龍窟等に残る。</li> <li>・景行天皇の巡幸によって開拓、神功皇后の時代に北部九州が統一したといわれる。</li> </ul>    <p><b>大陸・畿内を結ぶ交通の要衝</b> ・大宰府官道、勅使道が整備される。</p> <p><b>豊前地域の政治の中心</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大ノ瀬官衙</li> <li>・豊前国府跡、国分寺等</li> </ul>  <p><b>宇佐神宮の建立</b> 国家安護の神として崇められた宇佐神宮の建立により、八幡信仰の文化が広まった。</p>  <p><b>平野部で稲作がいとなまれる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都平野から中津平野にかけて稲作が始まる。</li> <li>・条里制が施行され、平野部の水田景観が形成される。</li> </ul>  <p><b>修験がもたらされる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・彦山豊前坊を中心とした豊前六峰(英彦山霊泉寺・求菩提山護国寺・桧原山正平寺・松尾山医王寺・福智山と普智山等覚寺)</li> <li>・修験の伝承</li> </ul> 	<p><b>山城の築城</b> ・山間の地形を利用して山城が築かれる。</p>  <p><b>小倉と中津を結ぶ交通の要衝に築造された松山城</b> ・奈良中期に築造された松山城は、地理的位置から多くの戦乱に巻き込まれる。</p>  <p><b>武家による八幡宮の建立</b> ・自分の領地内に戦いの神として八幡神を勧請し、領地の安泰と繁栄を祈願するため、八幡宮を建立した。</p>  <p><b>山伏達による茶の栽培が始まる</b> 求菩提山の谷筋では、山伏達によって茶の栽培が始まる。</p>  <p><b>修験道隆盛と英彦山とのつながり</b> ・峰入り修行、お潮井採り神事等が行われる。 ・山伏は、五穀豊穰・天下泰平を祈願する予祝行事の松会など民衆の農業信仰を支えた。</p>  <p><b>神幸祭が始まる</b> ・苅田山笠が宇原神社の神幸祭として始まる。</p> 

近 世	近 代	景 観 特 性
江戸時代 (17世紀~19世紀)	明治時代~ (19世紀~)	
<p><b>伝統的な家屋による集落の形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然や田園を背景とする集落地が形成される。</li> </ul> 		<p style="writing-mode: vertical-rl;">北豊連山と豊前海がつながる原風景</p>  <p>&lt;仲哀峠からの眺望&gt;</p>
<p><b>中津街道の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小倉と中津を結ぶ道が整備される。</li> </ul> <p><b>街道沿いの町並みの形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行事、湊、宇島など蔵が立ち並び在郷町が形成される。</li> </ul> 	<p><b>産業都市として発展</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>筑豊炭田の隆盛と鉄道網の発展とともに、沿岸地帯に工業都市が形成される。</li> <li>産業の発展を伝える旧蔵内邸などの建物が建設される。</li> </ul>  	<p style="writing-mode: vertical-rl;">往來の文化が伝える歴史の景観</p>  <p>&lt;国見山からの眺望&gt;</p>  <p>&lt;旧蔵内邸&gt;</p>
<p><b>宇佐神宮の杣山が求菩提山となる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>造営の木材調達のための杣山が求菩提の山中に定められる。</li> </ul> 	<p><b>宇佐神宮の杣始</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>式年造営のために、行われていた杣始が築上町等で復活する。</li> </ul> 	 <p>&lt;三重塔&gt;</p>
<p><b>干ばつ解消のため池を築造</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業用水確保のため、多くのため池が築造され、地域のなりわいを支える。</li> </ul> 	<p><b>新田原の果樹園の形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山林原野に柿やいちじく等の果樹園が形成される。</li> </ul> 	 <p>&lt;等覚寺の棚田&gt;</p>
<p><b>谷筋の水利を活かし棚田を形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>棚田、茶畑、集落、河川が連続する文化的な景観を形成。</li> </ul> 	<p><b>遠浅の海を活かした海のなりわいが始まる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>牡蠣の養殖や沿岸漁業が始まる。</li> </ul> 	<p style="writing-mode: vertical-rl;">清流が育むなりわいの景観</p>  <p>&lt;吉富漁港&gt;</p>
<p><b>干拓による農地の拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海際まで農地が広がる。</li> </ul>	<p><b>民俗文化を伝える神楽の継承</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>赤幡神楽、寒田神楽、豊前岩戸神楽など数多くの神楽を地域の人々が舞い、文化を継承している。</li> </ul> 	 <p>&lt;唐原神楽&gt;</p>
<p><b>京築地域に伝わる神楽</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社家神楽として神職によって舞い継がれる。</li> </ul>		

## 2. 特性と課題

### (1) 特性

#### ①北豊連山と豊前海がつながる原風景

山並み、川、谷筋、平野、海といった地形が広域的につながることによって形成されている大地形の景観は、京築地域の北部と南部で異なる様相を見せ、地域の原風景としてこの地域に暮らす人々の心の中に刻まれています。



#### ■北部の地形：平尾台～京都平野

##### 平尾台

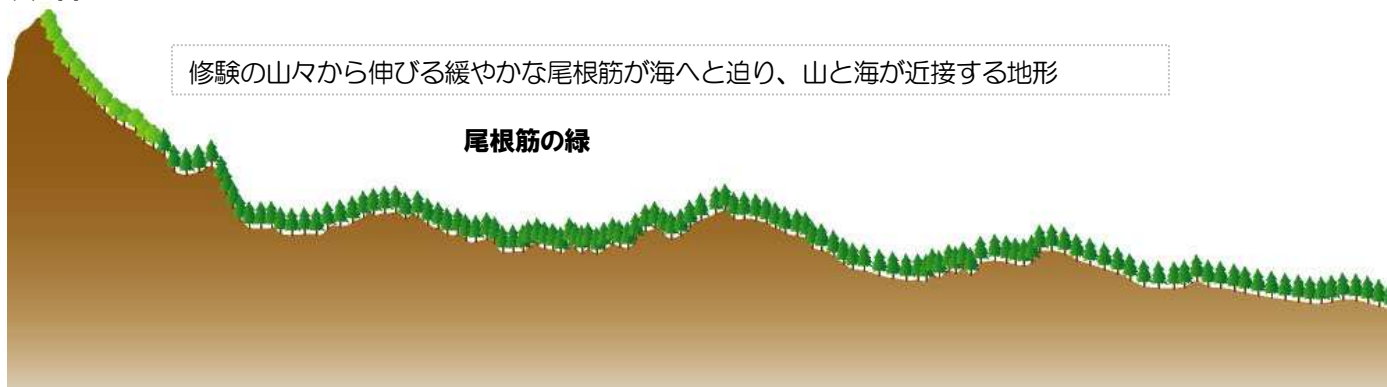
カルスト地形や台地状の山並み、平坦な平野が海へと続く開けた地形



#### ■南部の地形：犬ヶ岳～浜の宮海岸

##### 犬ヶ岳

修験の山々から伸びる緩やかな尾根筋が海へと迫り、山と海が近接する地形



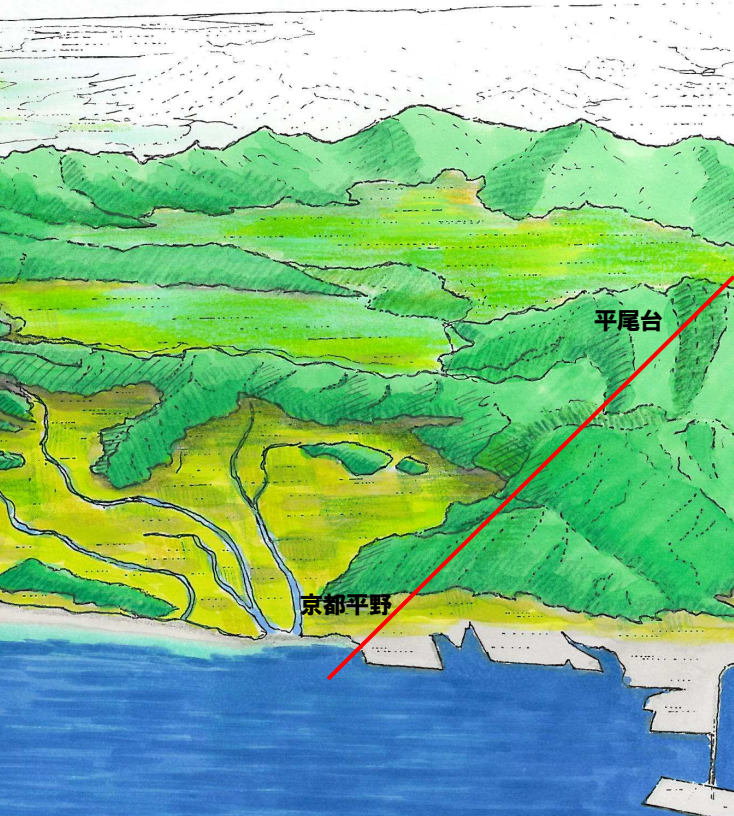
### 山並み(北豊連山)

北部では、白い石灰岩が草原に点在するカルスト地形の平尾台や“への字山”の愛称で親しまれている竜ヶ鼻の台形状の山並みが、緑豊かで平坦な京都平野のどこからでも見ることができ、北部のランドマーク的な存在としてたたずんでいます。

南部では、古代より修験の山として栄え、鬼杉でも有名な英彦山や5月にはツクシシヤクナグの大群落を見ることが出来る犬ヶ岳の山々がそびえ、そこから伸びる富士山に似たゆるやかな火山麓の尾根筋が中津平野や豊前海へと迫り、山と海が近接する地形を形成しています。

#### 北豊連山(ほっぽうれんざん)とは

平尾台から英彦山、犬ヶ岳に至る一帯が豊前の国の北半分を占めていることから、京築広域景観テーマ協定及び京築広域景観計画ではこれらの山々を「北豊連山」としています。



### 川・谷筋

北部を流れる今川等は、京都平野の丘陵田園の中を悠然と流れ、遠浅で穏やかな豊前海へと注いでいます。南部の山々を源流とする祓川や城井川等は、起伏に富んだ山あいをぬって豊前海へと流れていきます。

そして、山々の重なりと清流と言われる川によってつくられた谷筋は、北部の開けた景観とは異なった奥深い景観を形成し、それぞれの谷筋ごとに固有の生活空間や文化をつくり出し、独特の雰囲気醸し出しています。

### 平野

平地が少ない東九州地域において、京築地域では京都平野が海に向かって広がり、開放的な空間を作り出しています。

行橋市南西部、みやこ町、築上町北部にまたがる広大な京都平野は、河川によって運ばれた堆積物でつくられた平野で、古くからおいしい米どころとして知られる田園地帯が広がっています。

豊前市、吉富町、上毛町の平野部は、山国川流域に広がる沖積平野である中津平野で、水田や柿、イチジク等の果樹園が広がる農業地帯となっています。

### 豊前海

#### 海(豊前海)

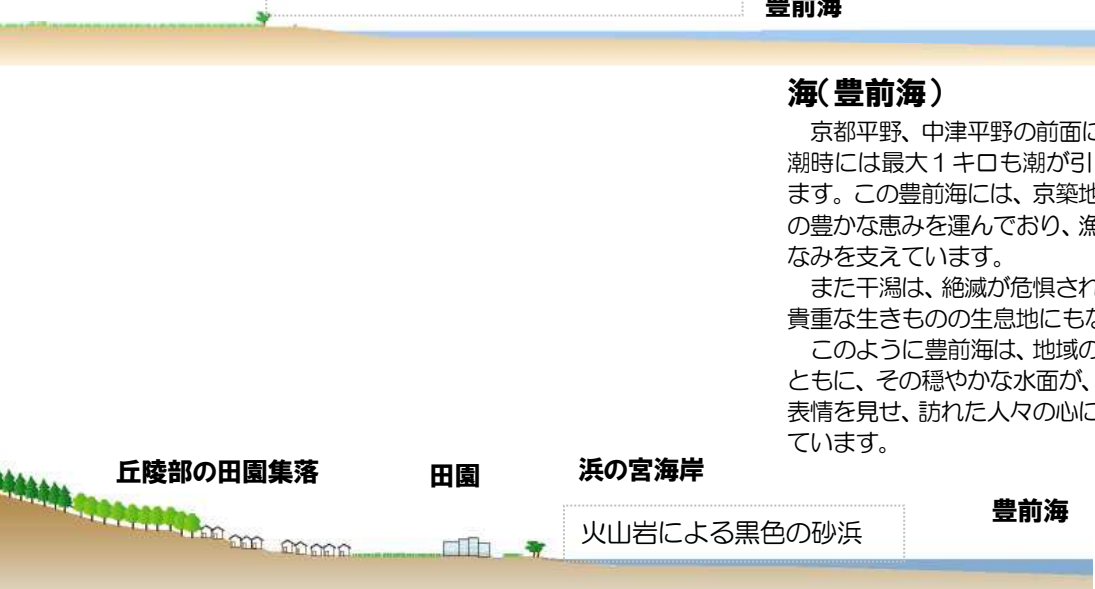
京都平野、中津平野の前面には、日本三大干潟の一つで干潮時には最大1キロも潮が引く遠浅の豊前海が広がっています。この豊前海には、京築地域の大小21の河川が山からの豊かな恵みを運んでおり、漁業をはじめとする人々のいとなみを支えています。

また干潟は、絶滅が危惧されるカブトガニやアオギス等の貴重な生きものの生息地にもなっています。

このように豊前海は、地域のいとなみの景観を形成するとともに、その穏やかな水面が、朝夕の陽の光によって多様な表情を見せ、訪れた人々の心に残る美しい景観をつくり出しています。

### 田園(水田・畑地)

花崗岩(マサ土)による白色の砂浜



丘陵部の田園集落

田園

浜の宮海岸

火山岩による黒色の砂浜

豊前海

## ②往来の文化が伝える歴史の景観

京築地域は、豊の国といわれた古代から畿内と九州、大陸とを結び交易の要衝として繁栄してきました。旧街道沿いには様々な歴史が折り重なって形成された街並みや史跡が点在しています。各時代、各地域で育まれてきた歴史や伝統、人々のいとなみ等のみちのつながりがもたらした往来の文化と歴史資源が、地域の歴史を今日に伝える重要な景観となっています。



### 古代「大宰府官道・勅使道が整備」

7世紀末から8世紀の初頭には、それまでの豊の国が豊前と豊後に分けられたことで、周防灘に面する一帯が豊前国と呼ばれるようになり、豊前国府や国分寺、国分尼寺が置かれ、政治・文化の中心的な役割を担っていました。

8世紀前半には、宇佐神宮が建立され、各地に八幡信仰の文化が根付くとともに、大宰府と宇佐神宮を結ぶ大宰府官道、京都と宇佐神宮を結ぶ勅使道が京築地域に整備され、この2つの街道は大和朝廷と宇佐神宮を結ぶ重要な役割を果たしました。

こうした畿内との関りの中で繁栄した歴史を豪族の墳墓や古代寺院、神籠石、大ノ瀬官衙遺跡など数々の史跡を通して感じることができます。



<大ノ瀬官衙遺跡>



<国分寺跡>

### 中世「修験の隆盛 祭礼文化の成立」

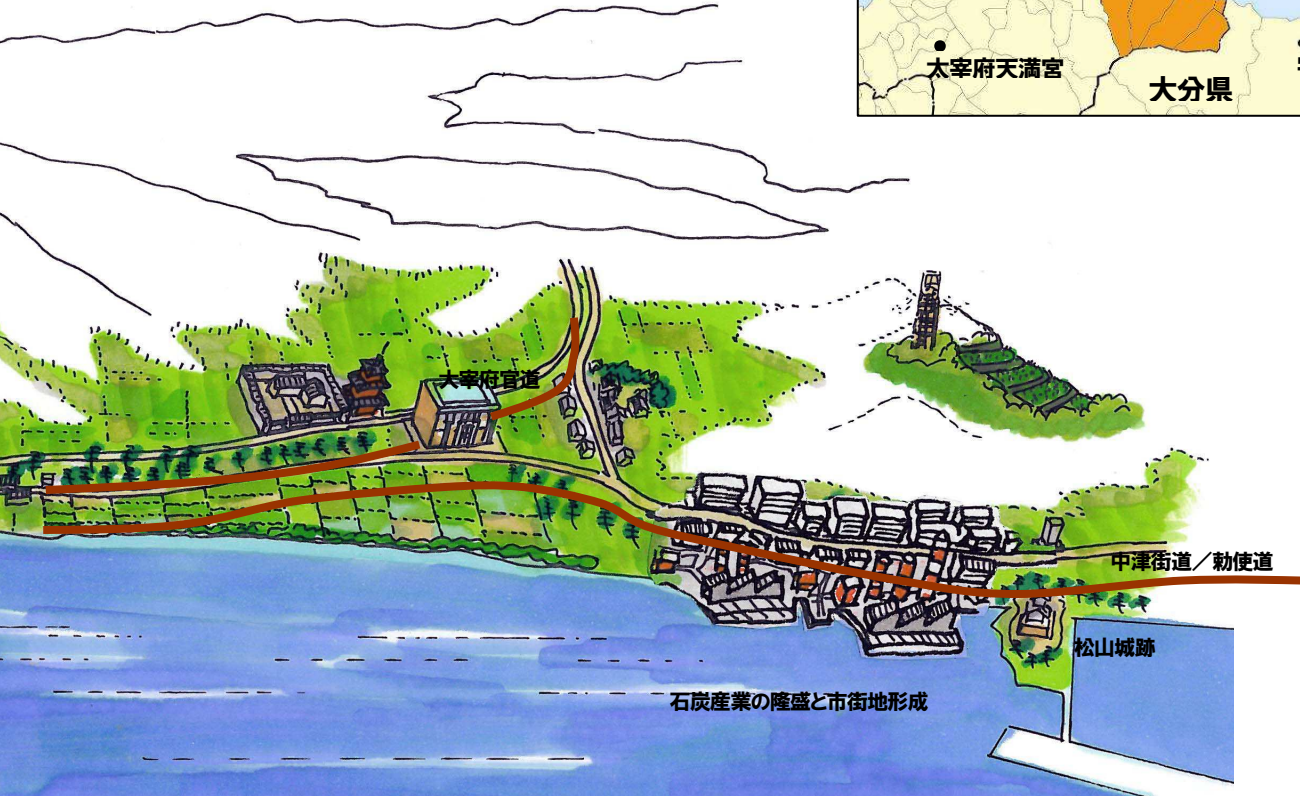
12世紀頃になると、平安時代末期に確立された山岳宗教である修験が盛んとなり、求菩提山、英彦山、松尾山等が北部九州修験道の一大道場として隆盛を極めました。

当時、五穀豊穡と国家太平を祈る修験道の行事として行われていた「松会」が、「等覚寺の松会」、「求菩提山のお田植え祭り」、「松尾山のお田植え祭り」などの地域の祭礼文化として今日も人々に受け継がれています。



<豊州求菩提山 絵図>

出典：豊前求菩提山修験文化政



**近世「中津街道の整備」**

江戸時代に入ると、小倉と中津を結ぶ中津街道が整備され、街道沿いには蔵が建ち並ぶ在郷町が形成されました。

藩界石、郡標、中津城への渡しなど往時の交流の名残を感じる歴史の景観が随所に残っています。



<在郷町の街並み（築上町）>



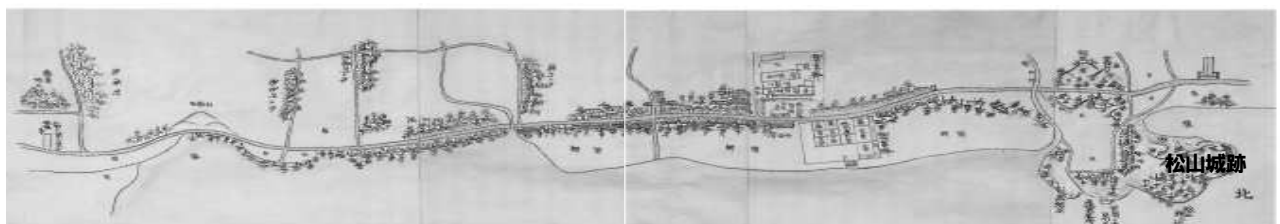
<郡標>

**近代～「石炭産業の隆盛と市街地形成」**

筑豊炭田の隆盛とともに、石炭を運ぶ鉄道輸送の需要の高まりから筑豊炭田と戸畑・門司を結ぶ筑豊興業鉄道や、筑豊炭田と宇島港を結ぶ豊州鉄道により鉄道網が発展し、近代産業を支える基盤が整備されました。

石炭の積み出しで栄えた苅田町、豊前市の沿岸地帯には工業都市が形成され、石炭の積み出しがなくなった後も、苅田港では平尾台という石灰岩地帯に隣接した立地を活かしてセメント産業が発展し、宇島港では港湾施設を利用した工場地帯が整備されました。

こうした産業の発展に伴い、工場地帯の周辺には住宅地や商業施設等が建設され、現在の市街地を形成していきました。



<豊前京都郡苅田往還要図>  
出典：中津街道

### ③清流が育むなりわい文化の景観

豊前海に注ぐ幾筋もの清流は、地域特有の生態系を有する豊かな自然や地域のなりわいを育み、人々の暮らしと深く結びつきながら形成されてきた重要な景観であるとともに、神楽などの独自の伝統や文化、四季折々の祭礼行事を生み、個性的で文化的な景観を形づくっています。

#### 豊かな自然が育む多様な生態系

標高 1,000mの山並みから豊前海に至る大地形で構成される豊かな自然環境は、多様な生態系を育む場となっています。

山には犬ヶ岳のブナ林やツクシシャクナゲ、鋸岩のゲンカイツツジ等の学術上価値の高い植生が見られ、川には清浄な環境を好むアマゴ、ゲンジボタル、カジカガエルや、ヤマセミ、カワガラス等の鳥類も見ることができます。

また、豊前海には、多くの魚貝類、アオウミガメ、アオギスなどが生息し、その他、多くの渡り鳥や野鳥が飛来する風景を目にすることができます。



<ツクシシャクナゲ>

#### 棚田が残る山・谷筋のなりわい

山と川によって形成される谷筋には、緑に囲まれた斜面地を活かして趣のある石垣が積まれた棚田が見られ、農耕地として利用されています。

また、山間部には、京築ブランドとして期待される京築ヒノキを産出する植林地があります。

こうした自然の地形を活かしていとなまれてきた農林業を支える山や谷筋は、京築地域の山のなりわいを象徴する景観となっています。



<寒田の棚田>

#### 遠浅の豊前海が育む海のなりわい

山の豊かな恵みは清流を通して海にも恵みをもたらします。大小の漁港が並ぶ豊前海沿岸一帯では、遠浅の海を利用して“海のミルク”と称される豊前海一粒かきや豊前本ガ二、車えび等の養殖や沿岸漁業がいとなまれています。

この他、蓑島や沓尾、浜の宮周辺の海辺では潮干狩り、河口域では川釣りを楽しむ人々の姿が見られます。こうした豊前海に浮かぶ養殖筏や漁船等の姿は、京築地域の海のなりわいを象徴する景観となっています。



<豊前海の漁業の風景>



豊かな自然が育む多様な生態系

棚田が残る山・谷筋のなりわい

遠浅の豊前海が育む海のなりわい





### 豊かな自然と密接に結びついた伝統文化

古代より大自然の恩恵を受けながら、なりわいととも個性豊かな文化も育まれてきました。

農業を主としていとなんできた京築地域では、五穀豊穰などを祈願する松会や神幸祭、神楽、楽打ち等の祭礼行事が現在も数多く行われており、豊かな自然と密接に結びついた地域の伝統文化として人々に親しまれるとともに、地域の魅力的な景観の1つとなっています。



＜生立八幡神社山笠＞

### 茶畑や果樹園が点在する丘陵部のなりわい

ブランド化や商品開発に地域で取り組んでいる名産のイチジク「とよみつひめ」やゆずや、柿などの果樹園が丘陵部に点在しています。

豊津地区の丘陵地や岩岳川沿いの斜面地では、古くから伝えられたお茶の栽培が行われ、初夏には青い空に映える緑豊かな茶畑の美しい景観を見ることができます。



＜豊津地区の茶畑＞

### 水田が広がる平野部のなりわい

京都平野から中津平野にかけて稲作が中心に行われ、北部では平尾台の山並みを背景に、南部では緩やかな尾根筋の斜面緑地を背景に、夏には青々とした、秋には黄金色の稲穂が揺れる美しい田園景観が広がっています。

また、温暖で少雨の瀬戸内海型気候である京築地域では、水に乏しい環境の中で農業用水を確保する工夫をしながら農業をいとなんできました。そうした人々の工夫を多くのため池を通して見ることができます。



＜平野部の田園風景＞

## (2) 課題

京築地域には太古から変わらない豊かな自然と人々のいとなみ等によって形づくられた良好な景観があります。

しかし、過疎化や高齢化の進展による緑豊かな里山や農地を維持する担い手の減少や神楽や楽打ち等の祭礼行事の後継者不足等により、山や谷筋などの自然景観や地域のなりわいを支えてきた田園景観等を保全・継承していくことが困難になってきています。さらに、経済性を優先した市街化の進展や開発行為によって、京築地域ならではの景観が次第に見られなくなってきています。

このままでは、先人達が作り上げてきた京築地域の魅力ある美しい景観がますます失われてしまうこととなります。このような現状をどう捉え、どう景観形成を行っていくかを地域全体で考え、地域固有の魅力ある景観形成に取り組むことが重要となります。

### ①山並み・谷筋・豊前海などの大地形への眺望景観に対する配慮

京築地域には、北部から南部にかけてそびえる平尾台や英彦山、犬ヶ岳等の山々、幾筋もの清流が形づくる谷筋、遠浅で穏やかな豊前海等の大地形が今日まで変わることなく存在し、その大地形を山や田園、海辺から眺めることができる眺望景観が地域の特徴となっています。



しかし、開発等による山や谷筋、丘陵部の斜面緑地の緑の喪失、田園部における大規模な娯楽施設や商業施設等の立地による田園の分断によって、田園や海辺から山並みを見上げる眺望、山や谷筋から豊前海を見下ろす眺望などに影響を与える場所もあります。良好な眺望景観を守るためには、豊かな自然環境を保全し、周辺との連続性や調和に配慮した景観誘導が必要となります。

### ②市街地・田園・山並みが移り変わる沿道景観への配慮

京築地域を貫く幹線道路や鉄道からは、背景に広がる山並みや田園景観、豊前海等の自然の移り変わりを見ることができます。

しかし、交通量の多い幹線道路沿いでは、奇抜な形態や派手な色彩の商業施設や娯楽施設の立地、屋外広告物の乱立により、道路からの眺望の阻害や煩雑な街並みとなっている場所があります。



また、大規模な建築物等の立地によって、自然景観や田園景観の連続性を阻害している場所もあります。

市街地・田園・山並みの移り変わりが感じられる沿道景観を形成するためには、背景の自然景観、田園景観と調和する沿道建築物等の景観誘導に取り組む必要があります。

③豊姫の国の時代から伝わる歴史的・文化的な景観の保全

古代の政治の中心として栄え、ヒト・モノが往来した京築地域には、地域の歴史を今に伝えるまちなみや建築物等が残っています。また、農業を主としていとなんできたこの地域では五穀豊穡を祈る神楽などの祭礼行事が盛んに行われてきました。



しかし、高齢化や後継者不足による谷筋の棚田や田園等の耕作放棄地の増加によって、美しいなりわい景観が見られなくなるだけでなく、豊かな自然とともに受け継がれてきた神楽等の祭礼文化の減少にもつながる等、時間の流れと社会環境の変化により、地域が守り育ててきた歴史的な景観が姿を消していくことが危惧されています。

そうした京築地域の歴史的・文化的な景観を守り、後世へ伝えていくためには、地域全体で連携した取り組みが必要となります。